

みなさんは一日どのくらいの水を使っているか知っているだろうか。

私も普段なにげなく水を使っていて、そのようなことを考えたことはなかった。一日をふり返ってみると、朝起きて顔を洗うとき、歯みがきをするとき、食事を作るとき、掃除をするとき、水を使う。私たちは毎日お風呂に入るかシャワーをあびるので、かなりの水を使っていることになる。実際に調べてみると、一人あたり一日二百リットルから三百リットルもの水を使っているそうだと、そして、私を一番おどろかせたのは、バーチャルウォーターについてである。牛丼を食べると、二千リットルの水を消費するのと同じことになるそうだと、そのような見えない水を含めると私たちが一日に消費している水は、三千リットルにもなるということだった。

日本では水を飲んだり使ったりすることが日常的にできるが、そのことが当たり前ではないことをフィリピンで学んだ。フィリピンでは蛇口をひねって出てきた水を使ってはいけないのだ。水を飲むことはもちろん、うがいや料理をするときも水道水を使用してはいけない。ミネラルウォーターを使わなければならなかったのだ。そのため、必ずバックの中にペットボトルやタンブラーを入れて外に出かけていた。いままでは、何をするにも蛇口をひねって使うのがあたり前のことだったので、フィリピンでの生活にはとまどいやおどろきが多かった。蛇口をひねるだけで、おいしくて害のない水がでてくるのは、あたり前のことではないことを痛感した。

ところで、日本でおいしくて害のない水を飲むことができるのはどうしてなのだろうか。

私は小学校五年生の時、姉と荒川上流河川事務所を見学し、浄水施設等で話を聞いた。日本では、飲料水を衛生的に管理し、安定して供給するための水道

施設がある。浄水場では、川や湖の水を人が飲み続けても健康に害がないように、さまざまな方法で処理している。それから、各家庭に供給されているということだった。私たちの手元に安全な水が届くためには、多くの人たちが関わっていることを知った。一方、フィリピンには下水道がなく、はいせつ物などが川へと流れてゆき、その川の水を塩素消毒をしないでそのまま水道水として使用している。そのため、不純物を示す数値は日本の四十倍以上である。

『世界で十五か国』これは、水道水の水を飲むことのできる国の数である。日本をはじめ、スウェーデンや南アフリカ、オーストラリアなどがその中に含まれている。私はこの数を聞いておどろいた。なぜなら、国連加盟国百九十三か国の内わずか七・七パーセントでしかないからだ。水道水を飲料水として飲むことのできる国の数はそう多くはなく、私たちのあたり前は、世界ではあたり前ではない。

社会の授業で、日本の非政府組織が民間団体に技術指導を行い、学んだ団体が現地の人々に技術指導を行う、という取り組みがアフリカで行われていると知った。私はアフリカ大陸の国々だけでなく、発展途上国が多い東南アジアの国々でも、このような取り組みが必要だと思う。また、水道の整備を整えるために、資金の援助を行うべきだと思う。

私にできることは少ないけれど、歯みがきするときコップに水を用意したり、シャワーを使わずお風呂のお湯を使ったり、汚れた皿は一度紙でふいてから出したりしていきたい。私たち一人一人が意識すれば、世界は変わると思う。私は決意する、世界中の人々が安心・安全な水を飲むことのできる社会を作る一員になることを。